

最優秀賞

民意をつかめ！

中西 勇輝（高校3年生：京都府）

高校3年生の私は、正直なところ選挙にあまり関心を持っていない。法律の改正により、18歳以上に選挙権が与えられるようになったものの、若い世代の投票率は低いままであり効果はいまひとつであるように思う。

そこで、問題の解決を促そうと考えたゲームが、みんなで選挙ゲームである。具体的な内容としては、まずゲームを始めるとプレイヤーはどこかの「地方」に所属する。「地方」とはゲーム上のジャンルを表したもので、例えばグルメ地方やスポーツ地方など、そこで交わされる議論のテーマがその名前となっている。選んだ地方では、そのジャンルに関する選挙が日々行われており、「コスパ最強のチェーン店は？」「人類最強のスポーツ選手は？」などといった、さまざまなお題で意見を対立させている。そして、プレイヤーは有権者として投票するか、または貯めたポイントを使うことで立候補者として、テーマに対する主張を掲げることができる。最終的に、最も多くの票を得た立候補者が勝者として大量のポイントが得られ、また、その候補者に投票したプレイヤーもポイントがもらえるという仕組みである。

このゲームの最大の要素として、連立制度がある。ゲームの進行は、予備投票と本投票の2つのフェーズに分けられ、予備投票の期間中にはそれぞれの候補者は得票の状況をみながら、他の候補者と連立の交渉を行い、新たな主張を再度掲げ、互いの票を引き継いで本投票に臨むことができる。その過程を経て、本投票期間中に最も多く得票した候補者が勝者となる。

選挙権は国民が持つ自らの未来を決める重要な権利。このままの状況では私たちの想像する日本とはかけ離れていってしまうかも知れない。だから、このようなゲームで若者が少しでも選挙に対する関心が生まれるようになれば良いと考える。